

砂丘

発行：独立行政法人 国立病院機構

鳥取医療センター

発行責任者：下田 光太郎

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、十分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研鑽に努める。

トピックス

1. 工事の進捗状況
2. 職場紹介
3. 第65回国立病院
総合医学会の受賞者



病棟等更新築整備工事の進捗状況について

現在、病棟等更新築整備工事は、12病棟改修工事を終え、機能訓練棟新築工事が完成間近となっている状況です。

この新機能訓練棟は、現在の訓練棟約339㎡から445㎡と広くなり、病棟の傍に配置することで診療と一体的なりハビリテーションが行えるようになっています。また、訓練場所の床はフローリング仕上げとなっていますが、この床は転倒した際のリスクを軽減するため緩衝素材を用いたフローリング材を使用しています。(体育館などの一般床と比べ40%程度転倒時の安全性を高めています)また棟全体が明るくなるように設計され快適なりハビリ等診療が行える建物となっています。



(2面へつづく)

新重症心身障がい児（者）病棟については、現在躯体が2階まで出来あがっています。この後3、4階の躯体を1月頃までに仕上げ、同時に内装工事、設備工事を実施していく予定となっており、完成は、平成24年3月を予定しています。

この新重症心身障がい児（者）病棟は、POST NICUを意識した集中管理が行える8床室を2室備えるとともに、ショートステイにも配慮した病室構成となっています。また病棟は1～3階までですが、4階には療育訓練室、大会議室などを備えた建物となっています。併せて4階には鳥取県立白兔養護学校の訪問学級も設置され、診療のみならず、療育(教育)も効率的に行える建物としています。加えて当該建物の冷暖房等のエネルギー源は、ガスを使用することとしており、従来の重油よりCO₂排出面や経済面においてメリットとなるようなコージェネレーション設備としています。

また、当院の療養環境の向上並びに地域から親しまれる病院とするため、この新重症心身障がい児（者）病棟の完成に合わせ、当院敷地周囲(又は建物周囲)を桜の木で囲うよう植栽を予定しています。

新重症心身障がい児（者）病棟完成後は、既存の重症心身障がい児（者）病棟、3病棟、機能訓練棟を解体し、医療観察法病棟の建築にとりかかるとしてあり、完成は平成25年1月を予定しています。

今後も当該工事の施工では、皆様にご迷惑等をおかけすることもあるかと思いますが、ご協力をお願いします。

業務班長 小林 英樹



● 職場紹介 ～薬剤科～ ●

薬剤科長 木内 司

当院の薬剤科は通称「薬局」と呼ばれており、現在5名の薬剤師と1名の臨床研究部事務員が働いています。

薬剤師の主な仕事は、1.お薬をつくること（調剤）、2.患者様にお薬の効果や副作用を説明すること（服薬指導）、3.お薬がきちんと飲めるように工夫をすること（医療安全）4.院内の感染予防に協力すること・患者さまの栄養状態の改善をすること・鳥取市内の病院や診療所と連携してお薬の情報交換をすること（チーム医療）、5.お薬の副作用や注意等を医師や看護師にお知らせして患者様の副作用の防止をすること（医薬品安全）、6.新しいお薬になるための試験に参加すること

（臨床試験・治験）など、いろんな業務をしています。

たとえば、入院患者様は、お薬をヒートシールのままお渡しするのではなく、できるだけヒートシールから出してパックにして、飲むときにまとめて飲めるように工夫しています。これはお薬が多くなると飲み忘れがあるため、飲み忘れのないようにしているのです。さらに、飲み込みが不自由な患者様には、口の中で溶けるような錠剤（口腔内崩壊錠）を採用して飲んでいただいています。

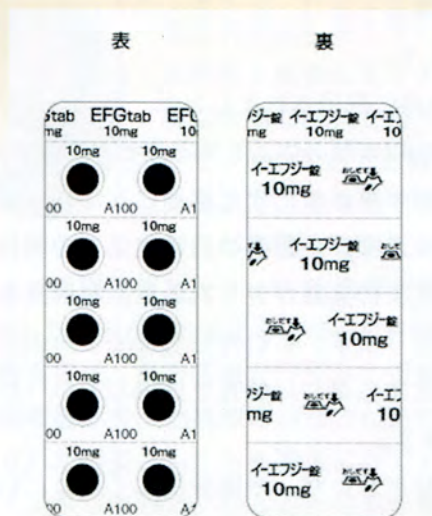
また、当院では、統合失調症とてんかんに将来使われるであろうお薬の試験をしています。この試験は治験（ちけん）と呼ばれ、患者様が同意されて定期的に

受診してお薬（になるであろう薬）を使ったり各種の検査をします。この治験は医師が中心ですが、CRCと呼ばれる治験協力者（薬剤師と看護師）が患者様のお

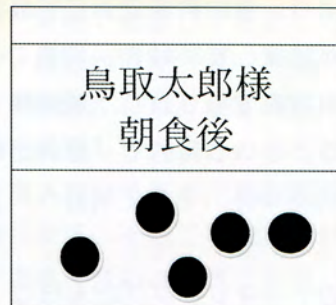
世話をさせていただいています。

このように当院の薬剤師は薬のプロとして、患者様に安全で安心な医療を提供しています。

(ヒートシール)



(パック)



● 職場紹介 ～1病棟(神経筋難病病棟:50床)～ ●

看護師長 花倉由紀

1病棟は、ALS（筋委縮性側索硬化症）パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経難病疾患の患者が多く入院している。入院患者の半数以上が人工呼吸器を装着しているため、安全面には特に注意して対応している。難病患者の看護は、きめ細やかな援助が必要とされる。スタッフは、患者一人ひとりを尊重し、心のこもった援助ができるよう、日々頑張っている。特にコミュニケーションには力を入れて取り組み、文字盤や意思伝達装置によるコミュニケーション手段を用いて、患者との信頼関係につなげている。看護師、療養介助員、看護助手の看護職員が、医師、リハビリスタッフ、臨床工学技士など他職種

と協働して、援助計画を実施・評価し、より良い支援を目指しているチームワークの良い病棟です。

単調になりがちな療養生活に少しでも、「心の癒し」の手助けになればと、季節ごとに行事を行っている。特に、演歌・懐メロなどなじみのある曲目でのミニコンサート、夏の花火大会、誕生日のメッセージボードプレゼントなど癒しのひと時を過ごす事ができ、患者家族から好評を得ている。今後もスタッフ全員が患者の安全を考慮し、患者にとって最適な医療と看護が提供できるよう、「感じ、考え、行動できる」ように、努力していきたい。



● 42年間のあゆみ～盛りあがった思い出祭り～ ●

保育士 岡崎 まりな

平成23年10月5日、重症心身障がい児（者）病棟の「思い出祭り」が開催されました。今年は病棟建て替えにより、今の病棟で過ごす最後の年になります。病棟が開棟して早42年、病棟での思い出を懐かしい映像や写真で振り返り、新病棟での生活に期待感を持つ、という目的で「思い出祭り～ありがとう42年間のあゆみ そして明日へ～」をテーマに行いました。

6病棟のテーマソング「たんぼぼソング」を歌って賑やかに始まり、病棟建築から現在までの42年間の思い出の写真をスライドショーにより振り返りました。職員も含め皆で昔を懐かしんで盛り上がりました。また、「思い出クイズ」と称しまして小児科ドクターや歴代の療育指導室長、小さい頃の患者さまの写真を「この人だ～れ？」と出題しました。正解

者には豪華賞品もあり、たくさんの方が手を挙げて参加されました。

私は今年4月に採用されましたが、思い出祭りを通して病棟での42年間の生活を知ることができました。仕事を始めて半年、まだまだ学ぶことばかりで大変なこともあります。行事や日常生活での関わりを通して患者さまの笑顔が見られると、私自身も楽しい気持ちになります。これからもたくさんのことを学び、患者さまに楽しい療育を提供していけたらいいと思います。

最後になりましたが、今回参加していただいたご家族の皆様、ボランティアの方々ありがとうございました。今後もみんなで楽しい行事を開催していきましょう。



第65回国立病院総合医学会の受賞者について

12病棟 看護師 岡田 雅人



この度10月に岡山で開催された国立病院総合医学会に参加し、看護研究を発表してきました。大規模な会場で発表を行うことが初めてだったのでとても緊張しました。発表までの前準備では、師長さんをはじめ色々な方にお世話になり

ながら、鳥取医療センターの12病棟を知らない方々にも行った内容が伝わるようスライドを作成しました。

発表当日は、鳥取医療センターの近藤看護部長や元林副看護部長、他病棟の師長さんたちや他施設へ異動された師長さんたちも聴きにきてくださり、ますます緊張しました。なんとか発表を無事に終え一安心していたところ、ベスト口演賞に名前を呼ばれ、とても驚きました。

自身の発表以外にも、東日本大震災での被災地域の施設の発表や援助活動の報告などがあり、大変興味深くききました。テレビなどでは放送されない現実を知り、もし鳥取で発生した時に自分はどのように行動できるのだろうかと考えさせられました。

今回学会の参加を通し、看護だけに限らず他部門の研究を多く知ることができ、患者様のために知識を深めていかなければならないと改めて思いました。

言語聴覚士 森田 愛



この度、国立病院総合医学会にて「当院における重症心身障がい児(者)への摂食機能療法の取り組み」について報告する機会を得ました。ベストポスター賞をいただき、共同演者始め、研究に関わった職員の皆様に深く感謝しております。

報告の内容は、NHOネットワーク協同研究「重症心身障がい児(者)における摂食機能療法の普及推進のための研究」の実践についてです。摂食機能に障害のある患者様に対し、院内でチームを組んで評価・訓練を実施した所、「舌の動きが改善した」「食事時のムセが減った」など摂食機能の向上が認められました。これは、食事介助する看護師が毎食時にこつこつと取り組んだ結果であり、日々の積み重ねの大切さを感じています。今年度も研究は継続しており、今後も食事を通して、患者様の生活の質の向上に努めたいと考えます。

児童指導員 前田 勝也



この度、「平成24年4月1日以降の重症心身障がい児(者)に関する法律の把握とその変化」という演題で発表してきました。重症心身障がい児(者)とは、重度の知的障がいと、重度の肢体不自由が重複している方のことです。この

ような障がいを抱えている方々が鳥取医療センターで療養されております。そして現在、障がい者全体に関わる法律が大きく変わってきており、重症心身障がい児(者)に関してもその波は押し寄せ、喫緊では平成24年4月1日に関係法律が改正されることになっています。この改正とは何?関係職員として知っておくことは?何を準備しておけば良い?その他たくさんの疑問が出てきました。その解決策で思いついたのが、現在の法律と改正後の法律の比較ができる表の作成でした。気の遠くなるような作業でしたが何とか形になりました。やる気と根気が実ったのかベストポスター賞を頂くことができました。今後、法律の詳細な事項が提示される予定ですが、めげずに把握していきたいと思えます。

副臨床検査技師長 林 久美子



去る10月7日午後より「スーパーいなば」で岡山へ出かけ、シンポジウム7「チーム医療における検査技師の役割」を聞き、検査部門の懇親会に出席し、懐かしい方々と交流し1日目が終わりました。2日目はQC活動のポスターを見、昼前にP3-25-6でポスター発表をし、思いがけずベストポスター賞をもらいました。一昨年の仙台では内容的に自分として満足のいくものでは無かったので、リベンジのつもりで今回は望みました。チーム医療の要素が入っているということで、選んでいただき、嬉しさがその後2~3日は消えませんでした。午後は鎌田實先生の特別公演「命を支えるということ」を最前列で聞き、日々の仕事の場面で、また、家庭でうわべだけではなく相手の身に自分を置き換えて、どういう言葉で、どういう態度で接したらよいか反省しきりでした。検査科の今後の方向性なり、今現在の自分の仕事に大変有用な内容でした。

● 「しゃんしゃん一斉傘踊り大会」に参加して ●

看護師長 夏田 真理

平成23年度は、8月14日に「しゃんしゃん一斉傘踊り大会」が開催されました。鳥取医療センターでは、新人職員や転勤者を中心に親睦を兼ねて参加を呼びかけています。中には何回も参加されているベテランもいて、踊りの師匠も務めて下さいました。私は、今年の4月に転勤してきて初めての体験でしたが、運営委員として参加しました。7月から練習を始めて2ヶ月足らず、参加スタッフの勤務もまちまちで全員そろっての練習は出来ませんでした。浴衣や半被を着て50人位の連が連なって大通りを踊り歩く

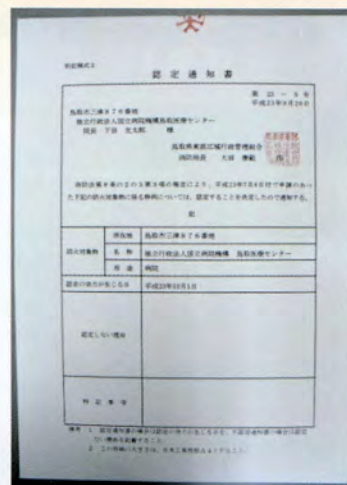
姿は、感動的でした。当日は多くの連が参加して、子供から大人までお祭りに酔いしれていました。さすが雨乞いの踊りだけあって今年は途中で雨が降って少し心配しましたが、最後まで踊りができて練習の成果が発揮できたことをうれしく思います。準備や片付け、当日のお手伝いなど、みなさんの協力の下に無事に終わることができ、運営委員一同感謝申し上げます。来年も盛大に開催されることを期待しています。



○ 防火対象物定期点検報告の特例認定を受けました ○

業務班長 小林 英 樹

平成23年9月28日鳥取県東部消防局において、防火対象物定期点検報告の特例認定証を受けてきました。



防火対象物定期点検とは、平成13年の新宿区歌舞伎町の雑居ビル火災を発端に新たに平成15年10月から設けられた点検で、消防法第8条の2の2によって定められているものです。(消防法第17条の消防設備点検とは別です)

点検内容は、①防火管理者を選任しているか②消防計画に定められた避難訓練等が適切に行われているか③防災対象物品に防災性能を有する旨の表示が付されているか④防火戸の閉鎖に障害となるものが置かれていないか⑤避難施設に避難の障害となるも

のが置かれていないか などがあります。

特例認定は、一定期間消防法令の遵守状況が優良であると認められる防火対象物について一定期間防火対象物の点検報告義務が免除されるというものですので、当院は消防法令の遵守状況が優良であると認められたということになります。点検報告が3年間免除されているだけで、避難訓練等は毎年実施しなければなりません。

今後も防火にあたっては、職員の皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

○ 日本看護学会老年看護学術集会で発表しました ○

2病棟看護師 今井 慈 穂 美

H23年7月26日から2日間、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティで行われた日本看護協会主催の老年看護学術集会で発表してきました。発表内容は、「胃瘻造設を患者家族が代理判断する要因」です。日本看護協会主催の大きな舞台での発表は準備がとても大変でしたが、気持ちはわくわくしてとても楽しみでもありました。

2日目の大ホールでの発表では、時間内に原稿を読み終わらなければという思いでいっぱいでした。会場では、研究に興味を持ってくださった方々から「施設に入所するための胃瘻造設であったのか。」「対象となった患者は最終的にどこへ退院していったのか。」「当院では摂食嚥下障害患者にどのように対応しているのか。」「胃瘻をすぐ造るのか。」とい

う質問を受けました。そのたびに、多くの方が胃瘻をさまざまな角度から身近な問題としてとらえていることを強く感じました。講演後に、埼玉県看護協会の方々から、「いい研究をしたね。とてもよかったよ。」と声をかけられ、ほっとしました。

今回の経験はとても良かったと思えました。胃瘻に対する患者家族の思いに触れることができ、今後の家族看護に活かしたいと思えました。また、学会参加により他の医療機関が研究した内容をたくさん聞くことができ、良い勉強にもなったので、今後も機会をつくり発表したいと思えました。

最後になりましたがこの場を借りて、今回の研究にご協力くださった患者のご家族様に感謝を申し上げます。

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター

平成23年10月1日現在

		月	火	水	木	金	
内科	循環器	松本		松本	松本	松本	
	呼吸器	山本	山本	山本			
神経内科	1	高橋	岡田	井上	金藤	土居	
	2	下田	下田	金藤 (膝下外来)	土居	房安	
	3	小西	房安		小西	井上	
	4				三島		
小児科		中野	小松	赤星	中野	赤星	
精神科	初診	診察室6	助川	岩田	坂本/岡田	幡	高田
		*予約制(午前中のみ)で事前の予約受付が必要になります。					
	再診	診察室1	高田	助川	土井	高田	柏木
		診察室2		坂本		助川	土井
		診察室3	岩田	幡	幡	岩田	坂本
		診察室5		池成		林	
診察室8					岡田		
外科		古澤	古澤	古澤	古澤	古澤	
専門外来	睡眠外来	精神科5	坂本		高田		
	神経内科(予約制)		失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害 嚥下障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病 高次脳機能障害
	小児科(予約制)		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野		
				予防接種 15:00~16:00	第3水曜日の予防接種は予約なし		

編集後記

「砂丘」10月号の発刊が遅れ大変申し訳ありませんでした。10月号は本来であれば7~9月の内容を掲載するところですが、発刊が遅れたため内容の一部は11月の内容も掲載しておりますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

今後はタイムリーな発刊に努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

- ◆所在地 〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
- ◆電話 0857-59-1111
- ◆診療受付時間 午前8時30分~午前11時30分
- ◆専門外来診療時間 午後1時30分~午後3時00分(睡眠外来の受付時間は午前中です)
- ◆休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
- ◆ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~nisorit/>